【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成17年4月14日(2005.4.14)

【公開番号】特開2000-339230(P2000-339230A)
【公開日】平成12年12月8日(2000.12.8)
【出願番号】特願平11-144827
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０６Ｆ　12/16
　Ｈ０１Ｌ　27/04
　Ｈ０１Ｌ　21/822
【ＦＩ】
　Ｇ０６Ｆ　12/16　　３３０Ｃ
　Ｈ０１Ｌ　27/04　　Ｕ

【手続補正書】
【提出日】平成16年6月8日(2004.6.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　プログラムとデータとを格納する記憶部と、
　前記記憶部から読み出した前記プログラムに基づいて演算処理を行う中央処理装置とを備える半導体集積回路において、
　誤り検出手段と、
　転送手段と、
　ブート手段とを備え、
　前記転送手段は、前記メモリから前記誤り検出手段へデータ転送を行い、
　前記誤り訂正手段は、前記転送手段によって転送されたデータに誤りが含まれるか否かの判定を行い、
　前記ブート手段は、前記誤り訂正手段が前記転送手段によって転送されたデータに誤りがあると判定した場合に、前記中央処理装置にブート処理を要求することを特徴とする半導体集積回路。
【請求項２】
　プログラムとデータとを格納する記憶部と、
　前記記憶部から読み出した前記プログラムに基づいて演算処理を行う中央処理装置とを備える半導体集積回路において、
　誤り検出手段と、
　転送手段と、
　ブート手段と、
　タイマとを備え、
　前記タイマは、所定の時間間隔で前記中央処理装置を間欠動作させ、
　前記転送手段は、前記中央処理装置による処理が停止している期間に、前記メモリから前記誤り検出手段へデータ転送を行い、
　前記誤り訂正手段は、前記転送手段によって転送されたデータに誤りが含まれるか否かの判定を行い、
　前記ブート手段は、前記誤り訂正手段が前記転送手段によって転送されたデータに誤り

があると判定した場合に、前記中央処理装置にブート処理を要求することを特徴とする半導体集積回路。

【請求項３】

プログラムとデータとを格納する記憶部と、

前記記憶部から読み出した前記プログラムに基づいて演算処理を行う中央処理装置とを備える半導体集積回路において、

誤り検出手段と、

転送手段と、

ブート手段と、

タイマとを備え、

前記タイマは、所定の時間間隔で前記転送手段に対して転送要求を発行し、

前記転送手段は、前記転送要求に基づいて、前記メモリから前記誤り検出手段へデータ転送を行い、

前記誤り訂正手段は、前記転送手段によって転送されたデータに誤りが含まれるか否かの判定を行い、

前記ブート手段は、前記誤り訂正手段が前記転送手段によって転送されたデータに誤りがあると判定した場合に、前記中央処理装置にブート処理を要求することを特徴とする半導体集積回路。

【請求項４】

アナログ信号をディジタル信号に変換する第１の機能と、ディジタル信号をアナログ信号に変換する第２機能とを有するコーデック手段を備えたことを特徴とする請求項１乃至３の何れか１項記載の半導体集積回路。

【請求項５】

音声の入力手段と、音声の出力手段と、音声処理手段を備えた情報通信機器であって、

上記音声処理手段は、請求項１乃至４の何れか１項記載の半導体集積回路を含んで成ることを特徴とする情報通信機器。